

次期学習指導要領 1枚まとめ｜小学校

算数 小学校

小中高を6つの分野でつなぎ、証明と批判的思考を育てる

10秒でいうと　割合・比・分数の内容と順序を見直し。証明につながる「論理的に説明する活動」を充実

算数は、小・中・高で目標と見方・考え方をそろえる方向です。学習内容は共通の6つの「分野」で整理する案です。割合・比・分数など、つまずきやすい内容は、内容や順序の見直しを検討するとされています。中学校の証明につながる「論理的に説明する活動」も充実する方向です。算数の公式の英語表記は「Mathematics」に改めるとされています。

1 割合・比・分数の内容と順序を見直す

割合・比・分数などは、理解が難しく、身に付いていない子が相当数いるとされています。そこで、確実に身に付くよう、学習内容や並べ方の改善を検討する方向です。
帯分数のような「足掛かり」の事項も、本当に必要か点検するとしています。 P165 P167 P171

授業では 割合の単元の前に、かけ算・わり算の意味が分かっているかを短い問題で確かめてから入る。そんな確認が方向に沿う一例です。

2 「なぜそうなるか」を説明する活動

中学校・高校の証明（論証）につながる、論理的に説明する活動を充実する方向です。速さや割合の「みはじ」「くもわ」のような覚え方だけでは、かえって理解を妨げかねないとしています。最後は意味の理解を伴うことが欠かせないとしています。 P164 P171

授業では 速さの問題で、図や数直線を使って「なぜこの式になるか」をペアで説明し合う時間をとる。そんな授業が考えられます。

3 小中高で共通の6つの分野

小学校の算数から高校の数学Ⅰまでを、共通する6つの「分野」で整理する案です。数と式、図形、変化と関係、データと確からしさ、論証、社会を読み解く数学の6つです。
小中高の目線を合わせ、学びをつなぐことがねらいとされています。 P166 P167

授業では 今の単元が6つの分野のどれに当たり、中学校のどの学習につながるかを、単元の初めに子供と確かめる。そんな工夫が一例です。

4 学び直しの時間をつくる

学年の区分は残しつつ、学校の判断で指導時期を前倒し・後ろ倒しできる方向です。まとまった時間をつくり、定着に課題がある単元を学び直せるとしています。分散学習など、認知心理学の知見をふまえた指導も有効とされています。
P174 P175

授業では 以前の単元の問題を、間をあけて朝の時間や授業の冒頭に少しずつ解き直す。そうした分散学習の取り入れ方が考えられます。

ほかにも変わること（小学校）

- 証明・論理的な説明の学習を小中高で強化（「論証」分野） P164 P165 P167 P171
- 割合・比・分数など、つまずきやすい単元の内容と順序を見直し（小学校） P164 P165 P167 P171
- 目標・見方・考え方を小中高で統一し、学習内容を6つの「分野」で整理 P166 P167 P168 P169 P170
- 学年の区切りをこえた柔軟な指導と学び直し（調整授業時数の活用例も） P174 P175
- 定着を支える指導の工夫（認知心理学の知見・帰納と演繹のバランス・ICT） P164 P174 P177
- 内容の精選と、教科書で「必ず扱う内容」と「必要に応じて扱う内容」の区別 P173

原田英語.com 次期学習指導要領ナビ｜
https://www.haradaeigo.com/jikigakushushido/download/
｜2026年11月4日 版

研修・会議・授業・保護者会での印刷・コピー・配布・投影はご自由にどうぞ。
ご連絡は不要です。出典：審議まとめ（2026年10月5日）。告示前の方向性です。